

北森建支部便り：石狩支部の取組み

『魚の放流と植樹の集い』

北森建石狩支部（岸本 真一支部長）は、平成24年10月15日、石狩市浜益区の千代志別川において、支部会員や地域住民など約30人が参加して、ヤマメの放流とサクラの植樹を行いました。

この千代志別川は、札幌中心街から増毛方面に約80km余り進んだところであって、留萌市との境界にある雄冬山を源流とし、国道231号線の日本海オロロンラインをまたいで日本海に注ぐ河川です。同川流域では、土石流災害の発生等を契機として古くから治山事業が施工されており、平成16年度からは自然環境の保全に配慮した魚道工等の整備が計画的に進められてきました。

北森建石狩支部では、こうした事業の趣旨を踏まえた森林ボランティア活動の一環として、会員企業が集って平成18年度から同川周辺の環境整備に取り組んできました。

当日は、夏の暑さが続いた影響から山の紅葉は進んでいないものの、あいにくの強風という天候の下でしたが、約100匹のヤマメ稚魚をバケツで放流した後、ネズミやシカの食害防護筒を施した高さ2mほどのエゾヤマザクラ10本を、これまでの植栽箇所に隣接した箇所に植樹しました。

この活動には、石狩振興局の松野幹也産業振興部長をはじめ小野道夫林務課長など林務課職員の方々や、また、石狩市の農林水産課、千代志別自治会などの地元の皆様にも参加いただき、活動の終了後には、参加者全員が集って懇談を行いました。

なお、千代志別川での取り組みは、今年度に現地の事業が完了することに伴い7年目の今回が最後となりますが、北森建石狩支部では、こうした地域の環境整備の取り組みや地元の方々との交流を進めるため、来年度以降の開催候補地を探しています。

北森建石狩支部事務局長 古谷俊行（岸本産業株式会社）



植樹を終えて全員集合！



大きく育てとヤマメを放流